

# 平成27年度 香川県立琴平高等学校 学校評価書

## 1 ミッション

地域社会で活躍する、誠意ある熱意あふれる創意に満ちた人間の育成

## 2 ビジョン

- (1) 誠意、熱意、創意を持って地域社会で活躍できる生徒を育てる学校
- (2) 教職員の協働により組織として教育実践を推進する学校
- (3) 保護者・地域との連携を図り、地域社会から信頼される学校

## 3 本年度の重点目標

- ①「地域で学び、地域で育つ琴高生」を実現するために、次の4点について重点的に取り組む。
  - ・基礎学力の向上
  - ・基本的生活習慣の確立
  - ・進路意識の高揚
  - ・地域連携の推進
- ②教職員の自律性と協働性を高めるシステムを構築する。  
「元気のでる学校づくり」のため、教職員による提案システムの構築、情報共有の方法の改善、校務分掌組織の見直しなど、教職員の自律性と協働性を高める学校経営システムを構築する。
- ③学校を進化する組織として再構築する。  
学校評価のあり方を見直すなど、常に進化し続ける組織のあり方をめざす。

## 4 自己評価表（校務分掌、学年団、各教科）

## 5 学校評価アンケート（各学年、3年保護者、教員、自由記述）

## 6 学校関係者評価（学校関係者評価委員会、平成28年度に向けて）

※1 評価計画は、①=会を開いて話し合う、②=アンケートをとる、③=その他(具体的に記入)

※2 実施状況は、A = 「良く成果をあげた」、B = 「成果があがった」、C = 「あまり成果がなかった」の3段階での評価を書く。中間評価は、年度末での評価予想を書く。

中間評価：分掌・学年団は9月末、教科は10月末。最終評価：1月末。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教務部	振替休業や学校行事等による授業時間数の減少を最小限に食い止め、学習時間を確保する。	月曜日の科目の授業時間数が減少することが予想されるため、定期的に科目別授業時間数を調査し、科目別実施授業時間を平均化する。	①	B	総体壮行会を1校時ではなく6校時に実施することで、更衣の時間による授業時間の減少をくい止めた。一層の行事見直しを検討したい。	B	集会の開催を必要最小限にした。時間講師の都合もあり、月曜日の授業を他の曜日に変更実施することはできなかった。	定期考査の日程を調整することで、授業時間数の減少をくい止めつつ、部活動運営とのバランスも考慮した学校行事を計画したい。
	学校の特徴を明確化し、より良いコース運営を行うため、教育課程を検討し校力の向上を図る。	各コースにおける実施授業科目を見直し、特色あるコースになるための教育課程を計画・検討する。	①	B	新教育課程への変更点が少ないため十分な成果は感じられないが、現在次年度に向けての見直しを検討中である。	A	平成29年度の入学生より、人文社会コース(2年)の履修科目の物理基礎を科学と人間生活へ変更し、B群に子ども文化を追加することで、近年増加傾向にある保育系への進学希望者により対応した教育課程を計画した。	複雑な教育課程になることを避けつつも、生徒の多様な進路希望に対応した教育課程に改善することを検討し、計画したい。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
生徒指導部	校則などのルールを守ることで、規範意識を高める。また正しい制服の着用ができるように服装指導を徹底することにより、基本的な生活習慣を身につけさせる。	登校指導を行うことにより、遅刻を減らし、時間や服装の注意喚起を行う。学年では、学年主任、学年生活指導を中心とした指導体制作りを行う。	③ 職員会議等で共通理解を図り、全体で指導を行う。	C	女子のスカートに関しては生徒の意識に校則との開きがある。職員全体で意識を持ち、学校の基準である「ひざ下」を全員の教師が生徒へ指導できる体制作り、組織作りを行う。	C	スカート丈についての共通理解が図れていない。まずは先生方へのレクチャーが必要。生徒の意識に押し流されないよう、また、生徒を混乱させないよう、生徒指導部だけでなく全職員で取り組まなければならない。	引き続き、校則などのルールを守ることで、規範意識を高め、制服の正しい着用を徹底させる。基本的な生活習慣を身につけさせる。
	指導を行う際、生徒間に不公平感をなくすため、指導の統一を図る。生徒指導部が中心となって、具体的な内容を発信していく。全職員が共通理解を持って、指導が行えるような組織作りを心がける。	学年で指導が変わったり、違いが出たりしないよう、生徒指導部内で話し合いを行い、学年の生徒指導の共通理解を図る。週に一度ある生徒指導の会にて、学年の問題点を話し合い、学年が主体になって指導していく。	①	B	学年の生徒指導が共通理解を持つことで、全体としての指導の公平さを保つことができている。引き続き取り組んでいく。	B	各学年で達成目標に違いがあるものの、不公平感は生じておらず、学校全体が落ち着きを保っているようである。それに伴い、懲戒も減少している。今後も学年を中心とした細やかな指導を心掛け、生徒への発信を続けていきたい。	生徒の指導を行うことも大切であるが、どのように生徒に指導を行うことが適切であるかを指導部で検討し発信していく。そのために今後も全職員が共通理解を持って、指導が行えるよう心がける。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
進路指導部	高い進路目標を持たせる。	行ける学校より行きたい学校を目指させる。公務員試験への挑戦。	②	B	希望進路の研究と準備を十分にさせる。公務員試験への挑戦。	B	具体的な仕事に結びつく専門学校希望者が増えた。公務員・医療系受験者が増えた。	進路目標を早期に定め学力を向上させる。
	進路情報の有効活用。	職員間での情報共有。生徒の希望先に応じた情報提供。	②	B	年度当初と同じ	B	生徒の進路状況を把握し易くした。看護・公務員模試等の実施回数の増加。校外進学説明会参加者の増加。	進路情報の有効活用。
特別活動部	特別活動に積極的に参加することを推進し、協調精神や自己肯定力の育成を図る。	・各生徒会行事 ・生徒が積極的に参加し、楽しめる活動を計画する。	① ② ③回覧	B	各行事、生徒が積極的に参加して、活動を盛り上げることができた。	B	各行事、生徒が積極的に参加して、活動を盛り上げることができた。どの行事も生徒が楽しん活動している様子だった。	教員からの指示を待つことが多いので、生徒の自主的な活動ができるように促す。計画的に仕事をしていく。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
特別活動部	地域との交流やボランティア活動を通して、達成感や自己効力感を感じる。	各生徒会行事 生徒が積極的に参加し、楽しめる活動を計画する。	① ② ③回覧	C	担当や係りだけの仕事になっているので、特別活動全体で取り組むようにしたい。	B	各団体から依頼が多く、生徒と共によく協力できた。また何でも受けるのではなく、生徒の安全や団体の性格を考えて、精選した。	ボランティア活動が重要視されることが多くなったので、人数を増やし、学校全体で取り組む姿勢が必要である。
人権・同和教育部	教職員の人権問題・同和問題に関する認識の深化や授業における指導力の向上を図るとともに、差別やいじめを許さない教職員の毅然とした姿勢を示すことで、誰もが安心して過ごせる学習環境を整える。	現職教育や人権・同和教育LHRの事前研修等の充実を図るとともに、日常的な教育活動の場面においても人権尊重の意識の徹底をめざす。	①	B	人権・同和教育LHRの事前研修のあり方を見直しやそのいっそうの充実を図る。魅力ある現職教育の実施に工夫をこらす。	B	人権・同和教育LHRの事前研修のいっそうの充実を進めることができた。現職教育の実施を通し、教職員の人権意識高揚を図ることができた。	各教職員が、自主的かつ日常的に、人権問題・同和問題に配慮した教育活動を進めていく、という雰囲気を作り、学校全体として醸成していきたい。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
人権・同和教育部	地域社会や小中学校等との交流・情報交換を密にし、進路保障のための協力体制をつくる。	定期的に小中学校等との交流・情報交換の場を設けるとともに、地区で開催される保護者懇談会や学校説明会の機会をとらえて地域社会との連携強化をめざす。	①	B	従来の取り組みに加え、日常的にも地区関係機関や保護者との情報交換・連携強化を図る。	B	定期的に開かれる小中学校等との交流・情報交換の機会や地区で開催された保護者との懇談会・学校説明会への参加などを通して、地域社会との連携の強化を図ることができた。	従来の取り組みをさらに充実させるとともに、小中学校等との交流や地区関係機関・保護者との情報交換・連携強化のいっそうの進展を図る。
保健環境部	性教育・薬物乱用防止教育に関する講演会・LHRを通して、命の大切さや尊さを学び自己肯定感を養う。	1・2年生は性教育をLHRで行う。 3年生はLHRで薬物乱用防止の講演会を行う。	②	LHRを実施した		B	1・2年生はLHRでとり上げることでテーマをより身近に考えることができた。	薬物や性教育の新しい資料を購入する。 また、講演会を行う。
	地域防災避難所としての役割を把握する	琴平町との連携を取り役割を確認する。	①	12月に実施予定	地域防災避難所としての役割の確認をする	C	1年生対象にAEDの講習会を行った。実習に参加していない生徒も見受けられた。	琴平町との連携を図る

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教育相談部	生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応を図り、支援していくことで、生徒が学習に集中できる環境を整える。	生徒の多様なニーズに対応するため、学級担任や学年主任との連携やSC、SSWと教育相談部員の協力体制の強化に努める。	①	B	1学期当初の面談に加え、本年度から2学期初めにも全員面談を行うことにした。その成果を相談活動に役立てることに努める。	B	2学期初めの面談を受けて、学級担任と連携を取り、SC、SSWに早期につなげることができた。生徒指導とも連携して対応できた。	悩みや困り感を抱える生徒に対応する際、保護者の協力や理解が得られるように、SC、SSWを含めた校内での連携体制の在り方を工夫していきたい。
	生徒の出席状況を把握し、欠席等の原因を解明する。悩み等の解決に尽力し、規則正しい生活が送れるように支援する。	欠席・健康調査や学校生活アンケートを活用し、担任や学年主任と適切な連携を取りながら、早期対応と継続的な見守りに努める	①	B	欠席・健康調査や学校生活アンケートの結果を生徒指導連絡協議会等での話し合いに生かし、より効果的な連携に努め、生徒を支援する。	B	生徒指導連絡協議会や教育相談部内での話し合いの中で、困り感を抱える生徒の情報を共有し、連携対応につなげることができた。	欠席がちな生徒の継続的な見守りが学校生活の安定に欠かせないので、教育相談部内での連携を強化し、多面的な支援体制を作っていきたい。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教育研究部	学習意欲を高め学力を向上させるための取り組みを充実させる。	従来の取り組みを見直すとともに、新たな業務(学校評価、現職教育)に協力して取り組み、軌道に乗せる。	①	B	1学期に実施した生活時間アンケートに改良を加え、2学期にも実施する。	B	生活時間アンケートは実態把握としては有効であった。活用方法を検討し、学力向上に繋げたい。	学習意欲を高め学力を向上させるために、様々な取り組みを提案・実現させる。
	学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。	各教科、分掌と連携して図書館利用の促進を図る。	①	B	広報活動を、より積極的に行う。	B	より活発に活動できた。各教科との連携をさらに密にしたい。	学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。
広報渉外部	「琴高通信」の発行、ホームページの適時的な更新により、地域や保護者へ、本校の教育活動の発信を行う。	ホームページを新たに全面的に改定し、ターゲットを明確にして、行事予定などの内容を定期的に更新する。「琴高通信」第17号を9月ぐらゐに編集・発行する。	①	B	ホームページを新たに全面的に改定し、行事予定などの内容を定期的に更新している。 「琴高通信」第17号を10月1日付で発行し琴平町の全戸に配布した。	B	ホームページの改定がほぼ完了しつつあり、行事予定などを定期的に更新することができている。「琴高通信」の発行・配布も完了した。琴高ふれあいダイアリーも作成中である。	ホームページの更新、琴高通信などを中心に情報発信の場を更に広げて行く。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点 目標
広報渉外部	P T A活動、同窓会活動を通じて、保護者や同窓会との連携を密にする。	P T A総会、琴高祭でのP T Aバザー、同窓会の役員会などを計画し連携を密にして行く。	①	B	P T A総会、琴高祭でのP T Aバザーに多数の保護者の参加を得た。同窓会の役員会などを実施し、創立80周年記念事業について相談した。	B	P T A総会、琴高祭でのP T Aバザーも保護者の参加で成功した。同窓会の役員会などを実施し、創立80周年記念事業について計画を練った。	特別な活動以外の普段の活動においても保護者との連携を密にして行くよう努力する。

※1 評価計画は, ①=会を開いて話し合う, ②=アンケートをとる, ③=その他(具体的に記入)

※2 実施状況は、A = 「良く成果をあげた」、B = 「成果があがった」、C = 「あまり成果がなかった」の3段階での評価を書く。中間評価は、年度末での評価予想を書く。

中間評価：分掌・学年団は9月末, 教科は10月末。最終評価：1月末。

学年団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点 目標
1 年 団	学習習慣を確立させ自学自習の意欲・態度を培い、基礎学力を定着させる。	漢字・英単語テスト等 地道に根気強く指導する。 各クラスで面談を実施し、成績について指導 する。	①	B	漢字・英単語テスト等地道に根気強く指導しているが、さぼろうとする生徒もいる。教科の成績として認定するなど新たな考え方も必要と考える。	B	各クラスで面談を実施し、成績について指導することができた。今後も、地道な指導を継続していくことが必要である。	基礎学力の定着を図るため、継続的な指導を根気強く行っていく。
	基本的な生活習慣を定着させる。	①制服を正しく着用させる ②時間を厳守させる ③言葉遣いを正しくさせる	①	B	ほとんどの生徒は、おとなしい生活を送っているが、数名の生徒は厳しい状況にある。今後も指導を継続していく。	B	ほとんどの生徒は落ち着いた学校生活を送っている。問題のあった数名の生徒も明らかに生活が改善された。	生徒指導部と連絡を密にし、地道な指導を継続していく。

学年団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価)	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価)	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
2 年 団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立</li> <li>・授業に集中して、学力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則を遵守させ、社会のルールを身につけさせる。</li> <li>・挨拶、掃除、服装、時間厳守。</li> <li>・家庭学習の習慣を確立させる。</li> </ul>	①	B	服装について、ほとんどの生徒は整備できているが、繰り返し指導の必要な生徒がいる。なぜ服装を正しく着るか、時間をなぜ守るかを生徒に理解を求め生徒指導部の協力により、指導が強化できた。	B	頭髪、服装の検査においてほとんどの生徒は問題なく良好である。一部の生徒の頭髪についても経過を見ながら指導しており改善されている。その他学校生活での校則の遵守もスムーズに行えている。	生徒自ら場面場面において、なぜ大切かを理解させて取り組ませる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な進路選択が行えるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面談等により、進路希望の把握や進路情報の提供に努める。</li> </ul>	①	B	さまざまな機会を利用して情報を提供することで自分の進路について考えさせることができた。	B	進路指導を中心に総合的な学習の時間やLHRを利用することができた。また、進路見学会などを通じて情報提供などに努めてきた。さらに進路意識を高めさせるために工夫していきたい。	進路意識を高めるために、情報提供や個人面談、保護者との連絡が重要となってくる。更に学校生活や学習への取り組みについて反省し、進路実現のための努力ができるように指導していく。

学年団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
3 年 団	進路を実現するために日々努力する。	保護者と連絡を取りながら、計画的に進路を決定する。 進路資料や情報を生徒に継続的、意識的、積極的に提供する。 ・生徒との面談を必要に応じて実施する。	①	B	情報の発信が遅れないようにする。	B	必要に応じた三者懇談を実施した。 進路指導部との連携により迅速な対応ができた。	自分の可能性に挑戦できる生徒を育てる。
	授業を真剣に受ける。	進路目標を自覚させた家庭学習をさせる。 提出物の期限を守らせる。	①	B	継続した指導を意識する。	B	個別指導による学習指導を効果的に行うことができた。	短期的な目標を立てさせ、継続した取り組みができるようにする。
	基本的な生活習慣を確立させる。	校則を遵守させ、社会のルールを身につけさせる。 挨拶の励行、清掃、服装の整備を意識させる。 ・保護者との連携を密にし、生活実態を把握する。	①	B	継続した指導を意識する。	B	担任を中心に、学年団の職員が連携し、生徒の指導を行うことができた。	共通した意識を学年団が持ち、指導に臨めるようにする。

※1 評価計画は、①=会を開いて話し合う，②=アンケートをとる，③=その他(具体的に記入)

※2 実施状況は、A = 「良く成果をあげた」、B = 「成果があがった」、C = 「あまり成果がなかった」の3段階での評価を書く。中間評価は、年度末での評価予想を書く。

中間評価：分掌・学年団は9月末、教科は10月末。最終評価：1月末。

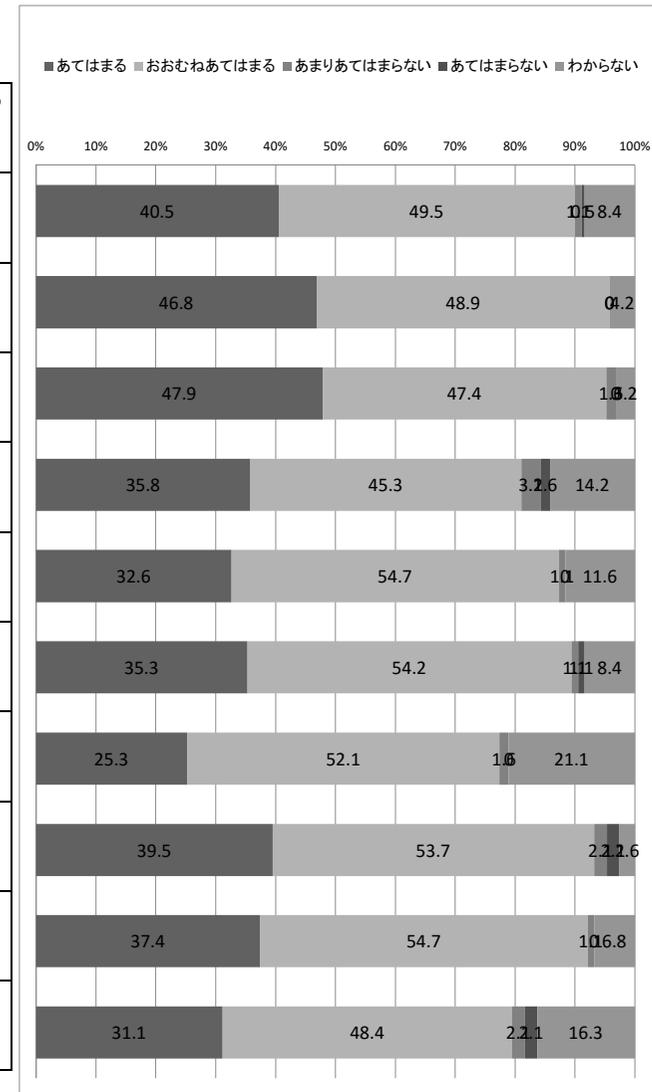
教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
国語	自己表現力を伸ばし、主体的に学習させる。	様々な文章を書き相互評価したり、発表したりする機会を増やす。各自の取り組みを科内で共有する。	①	B	継続して取り組んでいく。	B	「書く」指導、調べ学習、発表や相互評価等に各自が工夫して取り組んだ。科内での情報交換も有意義であった。「読む」指導にも力を入れたい。	主体的な学習を通じて、バランスのとれた国語力を育てる。
地歴公民	社会常識・社会事象を知るという習慣を身につけさせるとともに、知りえたことの定着を図らせ、さらに問題意識の深化をめざす姿勢を育む。	新聞やテレビのニュース番組等を積極的かつ分かりやすく授業で取り上げ、生徒の興味関心を高めるとともに、考査問題等にも反映させることで社会常識・社会事象に関する知識の定着を図る。また調べる・考える・表現するということに挑戦させ、生徒の問題意識の深化をめざす。	①	B	生徒は新聞やテレビのニュース番組等から情報を得ようとする姿勢をもつようになってきつつある。さらに自ら問題を設定し、考え、表現する、というところへ生徒を進ませるための取り組みを、今後は工夫したい。	B	授業中の生徒の活動の見直し等を通じて生徒は新聞やテレビのニュース番組等から情報を得ようとする習慣をもつようになってきつつあり、また考査問題を工夫すること等で、自ら考え、表現する姿勢を身につけつつある。	従来の取り組みを継続し、社会常識・社会事象を自主的に知ろうとする習慣を身につけさせたい。また社会情勢を知ることだけでなくとどまらず、自分なりに考えたりの姿勢を育ませたい。

教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
数学	学習内容の定着を図り達成感を持たせる。	小テストや確認プリントを定期的実施する。	①	A	このまま確認プリント等を定期的続ける。	A	定期的に復習することにより学習内容の定着が図れた。	学習内容の定着を図りより多くの生徒に達成感を持たせる。
理科	積極的に授業に参加し、基礎学力の育成を目指す。	実験などを取り入れ、興味関心を持たせるとともに、小テストなどの実施で基礎的な知識の充実を図る。	①	B	さらに継続して取り組んでいく。	B	基本的な事項の小テストを定期的に行うことで知識の定着が見られた。科目によっては、授業の進捗の関係で実験が十分実施できていない。	基本的な知識の定着を図る取り組みを継続するとともに、興味関心を持たせるために、実験を多く行うことができるよう計画する。
保健体育	主体的に活動に取り組む環境づくり。	指示に従い規律ある行動をさせる。	①	C	学年によって、講座によって意識や行動に大きな差が出てしまう。グループで行わせる。多少時間がかかっても、根気強く丁寧に指示・指導を行う。	B	根気強く丁寧に指示・指導を行うことにより、少しずつではあるが主体的に活動に取り組む、規律ある集団になってきた。	来年度も、今年度の目標を継続して指導していきたい。
	安全に留意して活動させる。	実施種目の特性や実施内容、用具などについて、その都度具体的に指示・指導を行う。	②	B	安全に留意し、活動に取り組む生徒が増えた。	B	アンケートなどのかから、安全に留意して活動しているとの回答を得た。	来年度も、今年度の目標を継続して指導していきたい。

教科	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
芸術	生徒が主体的に取り組める活動を工夫する。	生徒が取り組む課題を自分で選んで工夫できるようにする。 生徒の関心・意欲を高めるために視聴覚教材を積極的に活用する。	①	B	継続して取り組んでいきたい。	B	課題を自分で選ぶことにより積極的に取り組めていた。また、視聴覚教材を、適宜用いたことで、意欲は高まってきた。今後個々の興味・関心が生涯学習につながるよう工夫していきたい。	作品や、教材を用いた鑑賞活動を積極的に行い、生徒自ら感じたことを、自らの言葉によって表現できる言語活動の充実を図る。
英語	基本的英会話の理解と運用の充実と中学時に学習した基礎的事項の再確認。	毎授業時に簡単な英会話を実施するとともに、教科書本文の解説の折に中学時に学んだ基本事項の復習を行う。外国の文化、諸事情の説明。	①	B	概ねこのままで取り組みたい	B	毎時間英語を用いての授業を試みるが多くなった。基本的な事項の繰り返しを重点的に行えた。	簡単な英語表現を多用するよう試み、徹底的に基本事項を定着するよう指導する。

分 掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
家 庭	授業内容を実生活の中で活かせるよう、工夫する。	ホームプロジェクトを効果的に実施できる方法を考える。	①	B	生徒のホームプロジェクトを紹介し、発展させた内容を授業に取り入れる。	B	授業で生徒のホームプロジェクトを紹介し、食生活分野、保育分野で発展した内容を扱った。	生徒の生活の質の向上を目指し、また、H29年度の県大会でのホームプロジェクト発表に向けて、授業内容を実生活に活かせるよう工夫する。
	効果的に実習を行えるように環境を整備する。	実習室にある道具を見直し、使いやすい環境を整える。	①	B	授業内容を精選し、生徒に合った、必要な道具、数量を見直す。	B	ミシンの購入で生徒の被服製作意欲が向上したように思う。	不要なものは処分し、スペースを確保する。
商 業 ・ 情 報	検定試験合格を意識した授業へ取り組みを身に付ける。(商業科)	簿記、ビジネス文書実務検定、情報処理、電卓検定から三種目3級以上に合格させる。	①	B	今一度、基本を確実におさえさせる。	B	2年生の各検定合格者が安定していた。	授業で外部との地域連携を進めていく。
	情報リテラシーソフト(ワード、エクセル、パワーポイント)に慣れる(1年)	ビジネス文書実務検定の受験を促す。情報処理検定の基礎を押さえ、プレゼンも体験する。	①	B	予定どおり進められている。	B	ソフトの基礎的な項目(3種)を押さええた。	イントラネットを視野に入れた授業も考える。

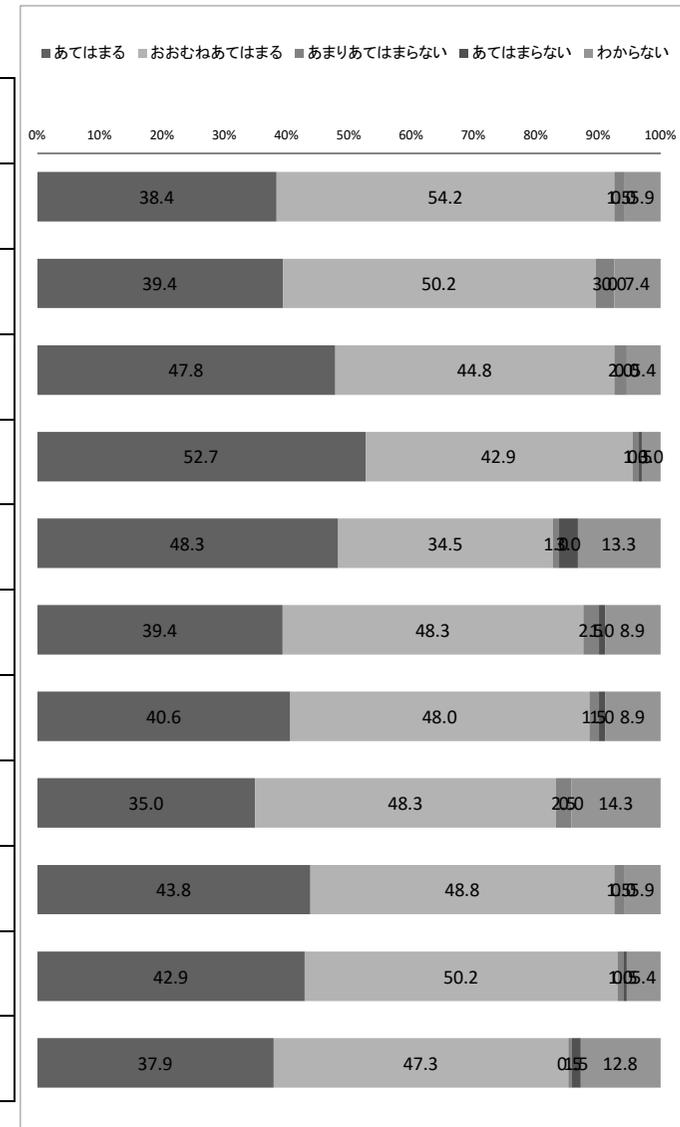
		今年度 平均値 (4段階)	昨年度の 1年生の 平均値 (4段階)	
1	個人面接は、自分の適性や生活を見つめ、進路について考える良い機会であった。	90.0	3.4	3.3
2	進路見学会や進路相談会は、進路情報を得たり進路について考えたりする良い機会であった。	95.7	3.5	3.4
3	体育祭や文化祭などの学校行事は、自発的に活動できる良い機会であった。	95.3	3.5	3.3
4	部活動への参加により、協調性や自己肯定感を身につけることができた。	81.1	3.3	3.2
5	地域での活動は、達成感を味わい、自主性を高める良い機会であった。	87.3	3.4	3.0
6	差別やいじめを許さない、誰もが安心して過ごせる学習環境が整えられていた。	89.5	3.4	3.2
7	心の悩みに対して、適切な援助・支援が行われていた。	77.4	3.3	3.0
8	漢字・英単語テストや課題テストは、家庭学習に取り組む良い機会となった。	93.2	3.3	3.2
9	授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	92.1	3.4	3.2
10	勉強と部活動の両立を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	79.5	3.3	3.2



アンケートで2または1を選択した理由

- (※0「わからない」については理由の記述はない)
- 3・あまり楽しいと感じなかったから。
  - 6・先生は陰で言われていることには対応できないから。
  - 8・練習プリントが負担だから。
    - ・部活が忙しくてできない。
    - ・英単語テストの意義が理解できない。
    - ・テストは定期テストだけでいいと思うから。
  - 9・授業進度が少し早い時があるから。
  - 10・両立は難しい環境だから。
    - ・特に言われたことがないから。

		あてはまる・おおむねあてはまる(%)	今年度 平均値 (4段階)	1年次の 平均値 (4段階)
1	コース制は、自分の適性或進路目標に対応していた。	92.6	3.4	
2	個人面接は、自分の適性或生活を見つめ、進路について考える良い機会であった。	89.6	3.4	3.3
3	進路見学会や進路相談会は、進路情報を得たり進路について考えたりする良い機会であった。	92.6	3.5	3.4
4	体育祭や文化祭などの学校行事は、自発的に活動できる良い機会であった。	95.6	3.5	3.3
5	部活動への参加により、協調性或自己肯定感を身につけることができた。	82.8	3.5	3.2
6	地域での活動は、達成感を味わい、自主性を高める良い機会であった。	87.7	3.4	3.0
7	差別やいじめを許さない、誰もが安心して過ごせる学習環境が整えられていた。	88.6	3.4	3.2
8	心の悩みに対して、適切な援助・支援が行われていた。	83.3	3.4	3.0
9	漢字・英単語テストや課題テストは、家庭学習に取り組む良い機会となった。	92.6	3.5	3.2
10	授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	93.1	3.4	3.2
11	勉強と部活動の両立を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	85.2	3.4	3.2

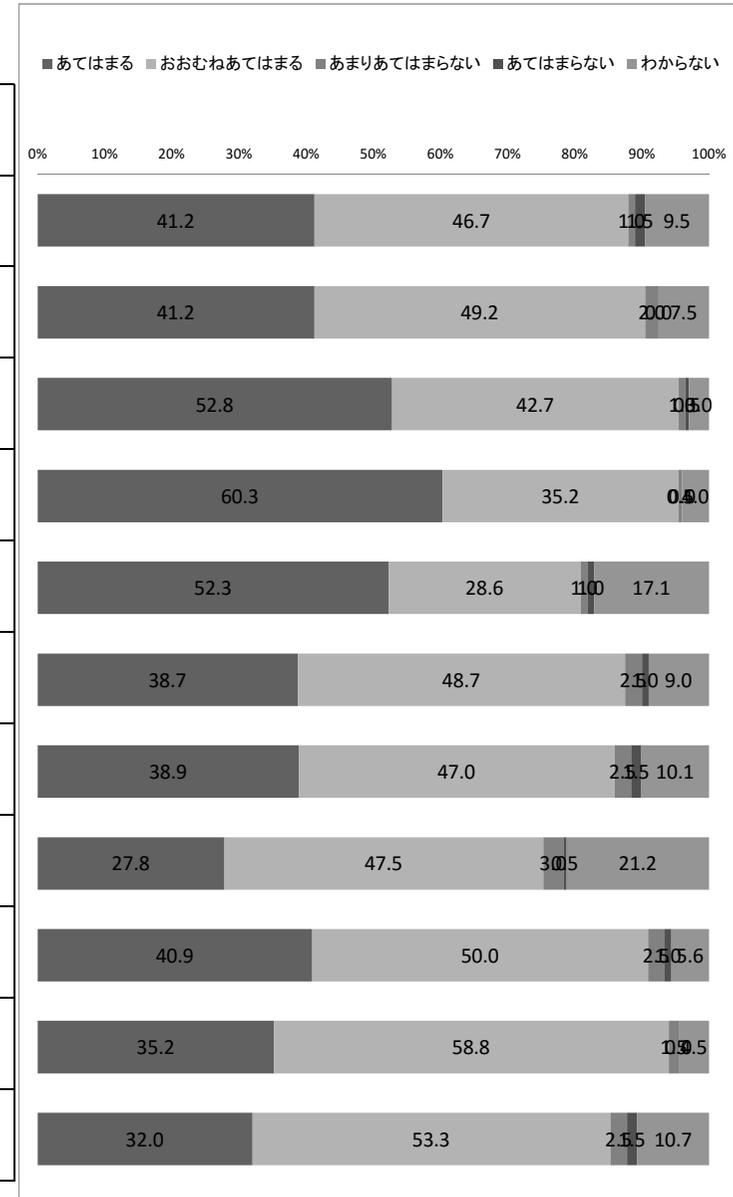


アンケートで2または1を選択した理由

(※0「わからない」については理由の記述はない)

- 1・2年生になってから就職すると決めただけ、遅かったから。
- 2・大したアドバイスをされていないから。
- 4・クラスマッチで人数によって種目が制限されたから。
  - ・文化祭で色々制限されて楽しくないから。
- 7・みんな周りの人のことを考えていないから。
- 9・勉強は学校でしていたから。

		あてはまる・おおむねあてはまる(%)	今年度 平均値 (4段階)	2年次の 平均値 (4段階)
1	コース制は、自分の適性或進路目標に対応していた。	87.9	3.4	3.1
2	個人面接は、自分の適性或生活を見つめ、進路について考える良い機会であった。	90.4	3.4	3.1
3	進路見学会や進路相談会は、進路情報を得たり進路について考えたりする良い機会であった。	95.5	3.5	3.3
4	体育祭や文化祭などの学校行事は、自発的に活動できる良い機会であった。	95.5	3.6	3.4
5	部活動への参加により、協調性或自己肯定感を身につけることができた。	80.9	3.6	3.2
6	地域での活動は、達成感を味わい、自主性を高める良い機会であった。	87.4	3.4	3.0
7	差別やいじめを許さない、誰もが安心して過ごせる学習環境が整えられていた。	85.9	3.4	3.2
8	心の悩みに対して、適切な援助・支援が行われていた。	75.3	3.3	3.0
9	漢字・英単語テストや課題テストは、家庭学習に取り組む良い機会となった。	90.9	3.4	3.1
10	授業を中心とした適切な学習指導が行われていた。	94.0	3.4	3.2
11	勉強と部活動の両立を実現させるための適切な指導・助言が行われていた。	85.3	3.3	3.1



アンケートで2または1を選択した理由

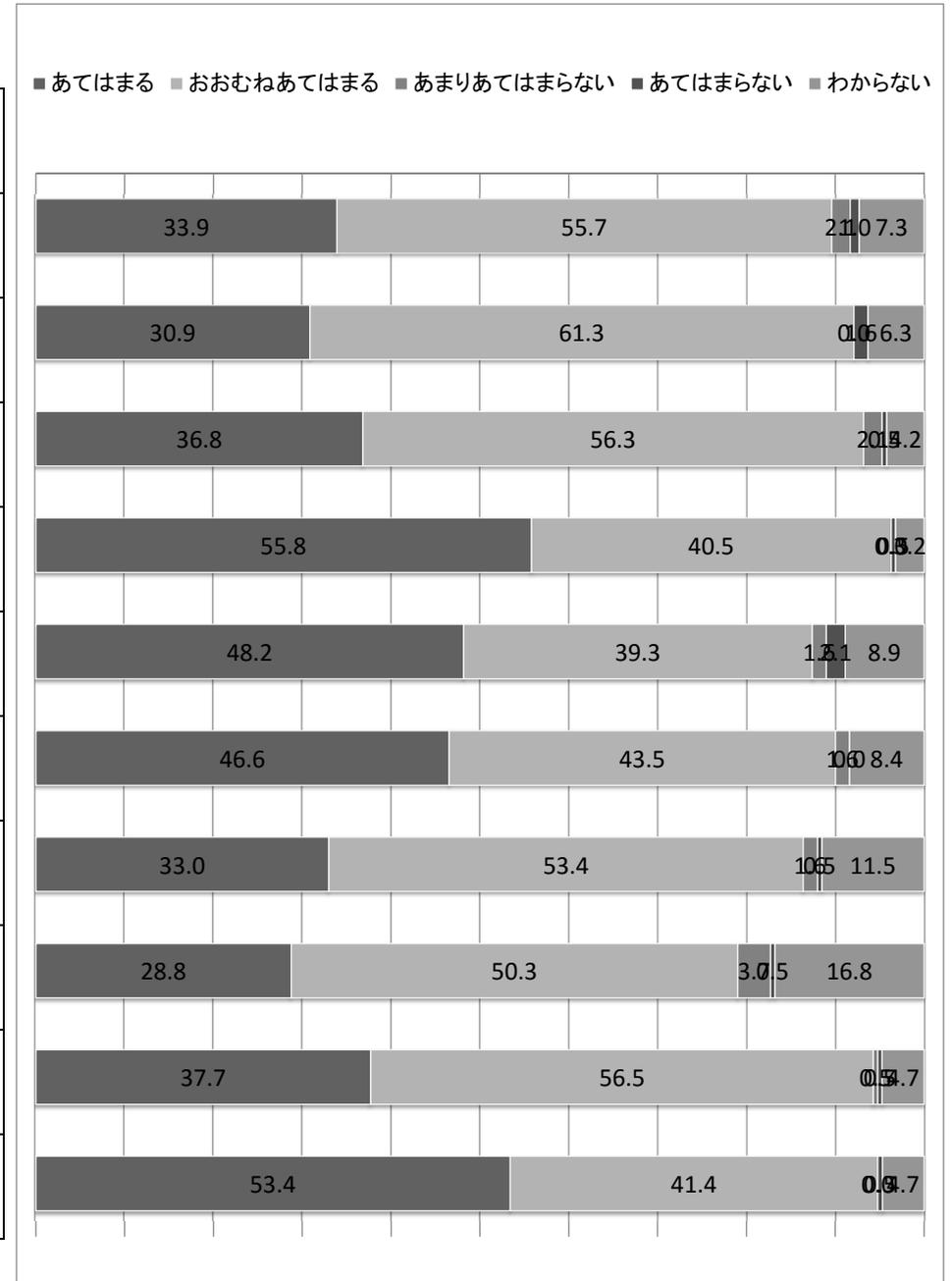
(※0「わからない」については理由の記述はない)

- 1・進路が途中で変わったので。
- 7・全然安心できる環境だとは思わなかったから。
- 8・特に支援などなかったから。
- 10・進路などより、部活を優先するように言われたので。

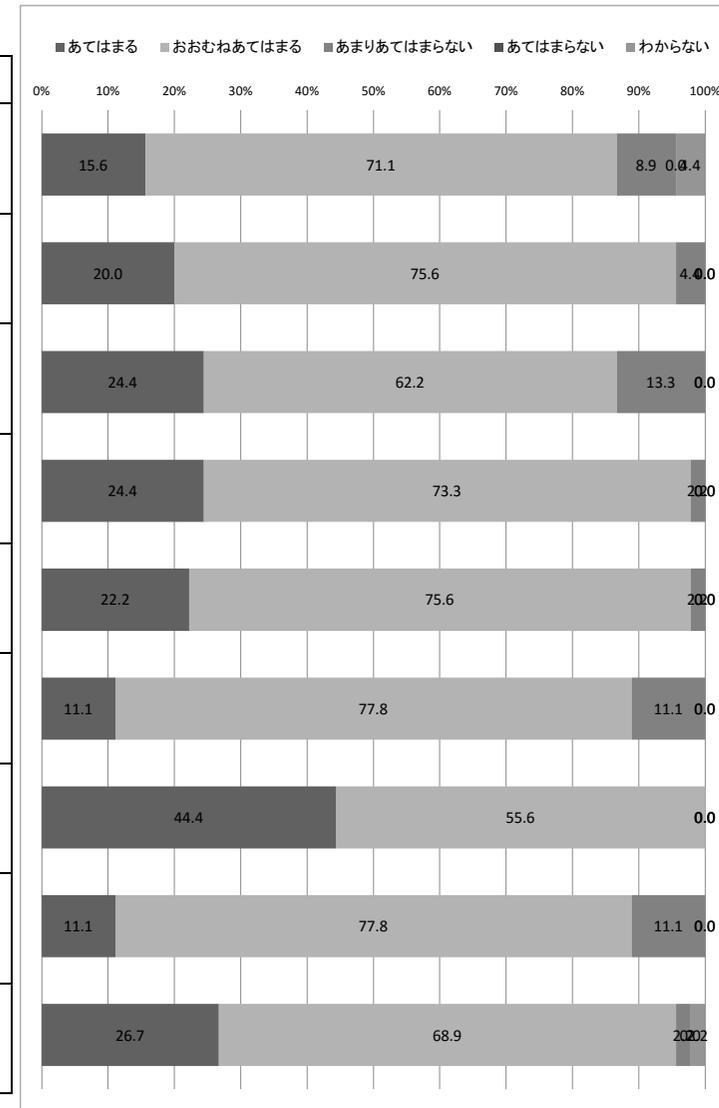
平成27年度 学校評価アンケート(3年生保護者対象)

平成28年1月実施 回答者数(192名)

		あてはまる・おおむねあてはまる(%)	平均値 (4段階)
1	生活態度やマナー等の指導が適切に行われていた。	89.6	3.3
2	コース制に応じた進路指導が適切に行われていた。	92.2	3.3
3	進路見学会や進路相談会は、進路情報を得たり進路について考えたりする良い機会であった。	93.1	3.4
4	体育祭や文化祭などの学校行事は、自発的に活動できる良い機会であった。	96.3	3.6
5	部活動では、生徒の心身の育成につながる活動ができていた。	87.5	3.5
6	ボランティア活動は、地域と生徒とのつながりを意識する良い機会であった。	90.1	3.5
7	差別やいじめを許さない、誰もが安心して過ごせる学習環境が整えられていた。	86.4	3.3
8	心の悩みに対して、適切な援助・支援が行われていた。	79.1	3.3
9	琴平高校は、地域や保護者に向けて、適切に教育活動の発信を行っていた。	94.2	3.4
10	琴平高校での高校生活は、生徒にとって満足できるものであった。	94.8	3.5



		あてはまる・おおむねあてはまる(%)	平均値 (4段階)
1	教務 ①行事等による授業時数の減少を最小限にし学習時間を確保する。 ②より良いコース運営をめざし、教育課程を検討する。	86.7	3.1
2	生徒指導 ①規範意識を高め、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ②全職員が共通理解を持って指導できるような組織づくりをする。	95.6	3.2
3	進路指導 ①早期に明確な進路目標を持たせる。 ②情報共有、情報提供を適切に行い、進路情報を有効に活用する。	86.6	3.1
4	特別活動 ①特別活動への積極的参加の推進。協調精神、自己肯定力の育成。 ②地域交流やボランティア活動を通じ、達成感、自己効力感を得る。	97.7	3.2
5	人権・同和教育 ①教職員の人権問題・同和問題に関する認識の深化、指導力の向上、差別やいじめを許さない毅然とした姿勢により、誰もが安心して過ごせる学習環境を整える。 ②地域社会や小中学校等との交流・情報交換を密にし、進路保障のための協力体制をつくる。	97.8	3.2
6	保健環境 ①性教育・薬物乱用防止教育に関する講演会・LHRを通して、命の大切さや尊さを学び自己肯定感を養う。 ②地域防災避難所としての役割を把握する。	88.9	3.0
7	教育相談 ①生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応を図り、支援していくことで、生徒が学習に集中できる環境を整える。 ②生徒の出席状況を把握し欠席等の原因を解明することにより、悩みの解決、規則正しい生活のための支援をする。	100.0	3.4
8	教育研究 ①学習意欲を高め学力を向上させるための取り組みを充実させる。 ②学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。	88.9	3.0
9	広報・渉外 ①「琴高通信」の発行、ホームページの適時更新により、本校の教育活動を発信する。 ②PTA活動、同窓会活動を通じて、保護者、同窓会との連携を密にする。	95.6	3.3



アンケートで2または1を選択した理由

(※0「わからない」については理由の記述はない)

- ①・時代の変化かもしれないが、年間の授業内容を減らす必要を感じる。  
・学校行事が多い気がする。  
②・いろいろな人の意見があり、まとめていくのが難しい。
- ②・共通理解が取れていないと思う時がある。
- ①・生徒が明確な進路目標が具体的に持っていない。・計画的に早期から取り組めていない。  
②・推薦基準がいつのまにか変わっていたり、あいまいであると感じる時がある。  
・情報を共有しながら全員で進路指導にあたるのが難しい。警察や公務員志望の集団面接等、練習システムを構築していく必要がある。

- ②・学校行事が生徒主体になっていない気がする。
- ②・特に意識したことがない。・地域との自営防災連携が進んでいない。
- ①・本校の実態に即していない。・なかなか学習意欲・学力が向上しないから。  
・今までと大きく変わっておらず、生徒も全然勉強習慣がついていません。  
・学力向上というより、現状把握にとどまっている。評価項目を変えた方がよいのではない。  
②・図書館の活性化の定義がわかりにくい、生徒がよく利用している感じはあまりない。

### ◆ 学校評価アンケート（3年保護者からの記述意見）

- ・琴平高校に通わせて良かったと思っています。とても良い学校です。
- ・3年間の子供の成長を見ていると琴平高校に入学させて良かったと思います。厳しい部活動をやり遂げ、素晴らしい先生方に恵まれました。感謝しています。
- ・琴高HPをもっと使って、部活やボランティアなどを発信するのが良いと思います。
- ・高校生活をほとんど休まず通えたのは、娘の努力もありますが、琴平高校が良い環境で、先生方や友だちに恵まれたからだと思います。私自身も先生方にたいへんお世話になりました。
- ・親との会話が少なくなる年頃ですが、勉強に部活によく頑張っていると思いました。遊びに来る友だちとの楽しい会話を聞くと、充実した高校生活が送れていたように思います。安心して学校に送り出したこと、とてもうれしく思います。3年間ありがとうございました。
- ・体育祭や文化祭などの学校行事を通じ、互いの良い所を認め合い、協力することの大切さをしっかり学べていたと思います。ご指導ありがとうございました。
- ・型にはまらず、おおらかに成長できたと思います。

### ◆ 学校評価アンケート（3年生からの記述意見）

- ・高校生活はあっという間なので、一日一日大切にしたいと思う。
- ・一年だからまだいいやと思って勉強しなかったけれど、ほんとに一年から勉強していた方がいいです。
- ・後悔しないように学校生活に取り組んでください。
- ・部活動を頑張るのはいいことだが、勉強も頑張れ。
- ・当たり前なことだけするのではなく、もっと自分自身で考えて行動しよう。

### ◆ 学校評価アンケート（教員からの記述意見）

- ・若い人が少ないせいか、若い人に仕事が多く集まる傾向にあるのではないか。
- ・面接指導の面で、特に新しく来た先生が、勝手がわからず大変そうだった。面接用指導の冊子等の必要があると感じた。

## 平成27年度学校関係者評価委員会

日時：平成28年2月19日（金）15：00～16：15

場所：香川県立琴平高等学校 小会議室

参加者：学校関係者評価委員3名（学校評議員3名）

学校職員4名（教頭、教頭、事務部長、教務主任）

### 1 学校関係者評価委員の状況

校務分掌、学年団、教科のそれぞれが行った本年度の重点目標に対しての取り組み状況と自己評価、来年度の重点目標について、評価表（p.2~16）を見ながら教頭が説明を行った。また、1年～3年の生徒、3年生保護者、教員のアンケート結果（P.17~22）についても教頭が説明を行った。その説明の中で、今年度より、各アンケートにおいて、2「あまりあてはまらない」と、1「あてはまらない」を選択した場合、その理由を記述する必要があったが、その数は少なかった。5「あてはまる」、4「おおむねあてはまる」を選択した割合が高く、最低でも75.3%、最高では100%を占める項目もあった。ただ、生徒アンケートの質問項目「心の悩みに対して、適切な援助・支援が行われていた」などのように、0「わからない」と選択した割合が高い項目もあった、と報告した。このことについては、学校評議員から、「この質問は学校全体の取り組みについて聞いている。例えば、生徒に『SCやSSWに相談できることを知っていますか』という質問に変えてみるとか、生徒には『あなたは？』とか、保護者には『あなたのお子様は？』という聞き方をすれば、SCやSSWの認知度を図れるのではないかと助言を受けた。また、もう一人の学校評議員からは、『貴校の重点目標でもある地域連携の推進は、かなり行われているように感じたが、アンケート結果では、評価が低いように見て取れる。学校内では地域連携が認知されておらず、一部の生徒のみの活動になってはいないか。もっと多くの生徒に参加を呼び掛けてはどうか。』という助言を受けた。地域連携の活動内容が生徒にわかりづらく、活動の内容の「見える化」を図ってみてはという助言があった。

その他、SCやSSWの勤務状況や、他校でよく耳にする登校時の生徒のマナーなどについての質問があった。また、学校側から、今年度本校が取り組んだ「かがわの高校アクションプラン『琴高地域ふれあい・おもてなしプラン』」の報告を兼ね、ボランティアセンターの設置や、「琴高ふれあいダイアリー」の発行についても報告した。

### 2 平成28年度に向けて

校務分掌、学年団、教科における自己評価は、概ね良好であり、特に問題となる結果は出ていないが、重点目標と具体的取り組み、年度途中の見直しと年度末の評価の内容が、本校のミッション、ビジョン、そして重点目標を踏まえたものに必ずしもなっていないところを改善していかなければならない。また、学校評議員から指摘があったように、生徒、保護者、教員のアンケートの質問の仕方や、今年度新しくした理由記述の方法など、教育研究部を中心にアンケートをより効果的なものにするための検討がなされるべきである。そして、ここ数年、生徒が落ち着いて学校生活を送れている状況を評価する一方で、各校務分掌、学年団、教科などが、本校の重点目標「地域社会で活躍するたくましい人材の育成」を達成するために協力・理解を行い、活動内容の「見える化」を図っていく必要があると考えている。